

ガーナ共和国カカオ産地にカカオの苗木約 12.5 万本を寄贈 ～カカオ豆の持続可能な生産を支援～

ロッテグループは、長年にわたるカカオ取引に感謝を含め、ガーナ共和国のカカオ産地へカカオの苗木約 12.5 万本*を寄贈いたします。カカオ豆の生産・流通管理のために設立された同国政府機関 COCOBOD を通じ、カカオ産地へ苗木をお届けします。10月8日に現地で開催された贈呈式が行われ、ロッテグループ会長 重光昭夫、株式会社ロッテホールディングス代表取締役社長 CEO 玉塚元一、株式会社ロッテ代表取締役社長執行役員 中島英樹、ロッテ食品事業統括代表 イ・ヨング、ロッテウエルフード CEO ポール・イーが出席しました。

*贈呈される苗木約 2.5 万本と、育苗センターで 25 年 6 月頃を目途に育成される苗木約 10 万本との合計



10月8日に行われた寄贈式の様子

ロッテグループのチョコレート事業は、1964年の「ガーナミルクチョコレート」発売以来、ガーナ共和国のカカオ産地からの高品質カカオの安定供給への尽力のおかげで、今年で60周年を迎えることができました。近年、ガーナ共和国では農家の貧困や児童労働、森林破壊などカカオ産業における構造的な課題が指摘されています。また、直近の収穫期において、同国ではカカオの収穫量が大きく減少しており、その要因は、天候不順や病虫害、カカオの木の高樹齢化、農薬や化学肥料の高騰などが複合的に関連していると考えられています。病虫害の被害や高樹齢化に対しては、カカオの木を新たに植え替えるために苗木が必要です。こうした状況の中、同国における持続可能なカカオ生産を支援するため、感謝を含めてカカオの苗木を寄贈する運びとなりました。今後も同国と良好な関係を築きながら、持続的な調達に向けて取り組みます。

■ 概要

- 寄贈内容: カカオ苗木約 12.5 万本 (4 万ドル相当)
(苗木として約 2.5 万本、約 10 万本を育苗センターで育苗後に寄贈)
- 寄贈時期 : 2024 年 10 月~2025 年 6 月
- 寄贈地域 : ガーナ共和国のカカオ産地 (当グループの調達地域を中心に配布)



贈呈された苗木



カカオ苗木育苗センター (イメージ)

■【参考】株式会社ロッテのガーナ共和国カカオ産地への活動



チョコレートが主力製品である株式会社ロッテにとって、カカオ豆の持続可能なサプライチェーンの実現は重要な課題です。カカオ豆の生産地は児童労働や森林減少、病虫害による収穫量減等の様々な課題を抱えており、こうした状況を改善して、チョコレートに携わるすべての人の幸せに貢献しながら、カカオ豆の持続可能なサプライチェーンを実現することが使命です。

持続可能なサプライチェーンの実現に向けて、調達するカカオ豆生産地のトレーサビリティ確立とその生産地が抱える課題への支援を行っています。そのように調達したカカオ豆をロッテサステナブルカカオと名付けて調達割合を拡大しており、2025 年度までにガーナ共和国から調達するすべてのカカオ豆で、2028 年度までに調達するすべてのカカオ豆で実現する目標を掲げています。

・株式会社ロッテサステナビリティ目標「ロッテミライチャレンジ 2048」

<https://www.lotte.co.jp/corporate/sustainability/>

■ 株式会社ロッテホールディングス 概要

中核事業である菓子・アイス領域をはじめとし、プロ野球球団の運営、不動産、ファイナンス、CVC、ホテル、ヘルスケアなどの事業を展開しています。今後は食品事業のさらなるイノベーションに加え、日本と韓国の事業シーズを掛け合わせたビジネス創出に向けて、果敢にチャレンジしてまいります。

ロッテグループは 1948 年に日本（東京）でチューインガムの製造・販売を開始。

現在は、日本と韓国に本社機能を持ち、世界約 30 の国と地域で食品、流通、小売り、バイオ医薬、ヘルスケア、データセンター、ホテル/リゾート、エンターテインメント、建設などの領域でビジネスを展開しています。

わたしたちは「Lifetime Value Creator」をグループ統一のビジョンとして掲げ、人々のライフサイクルのすべてにおいて価値を提供し続けてまいります。

・URL : <https://lotte-hd.com/>